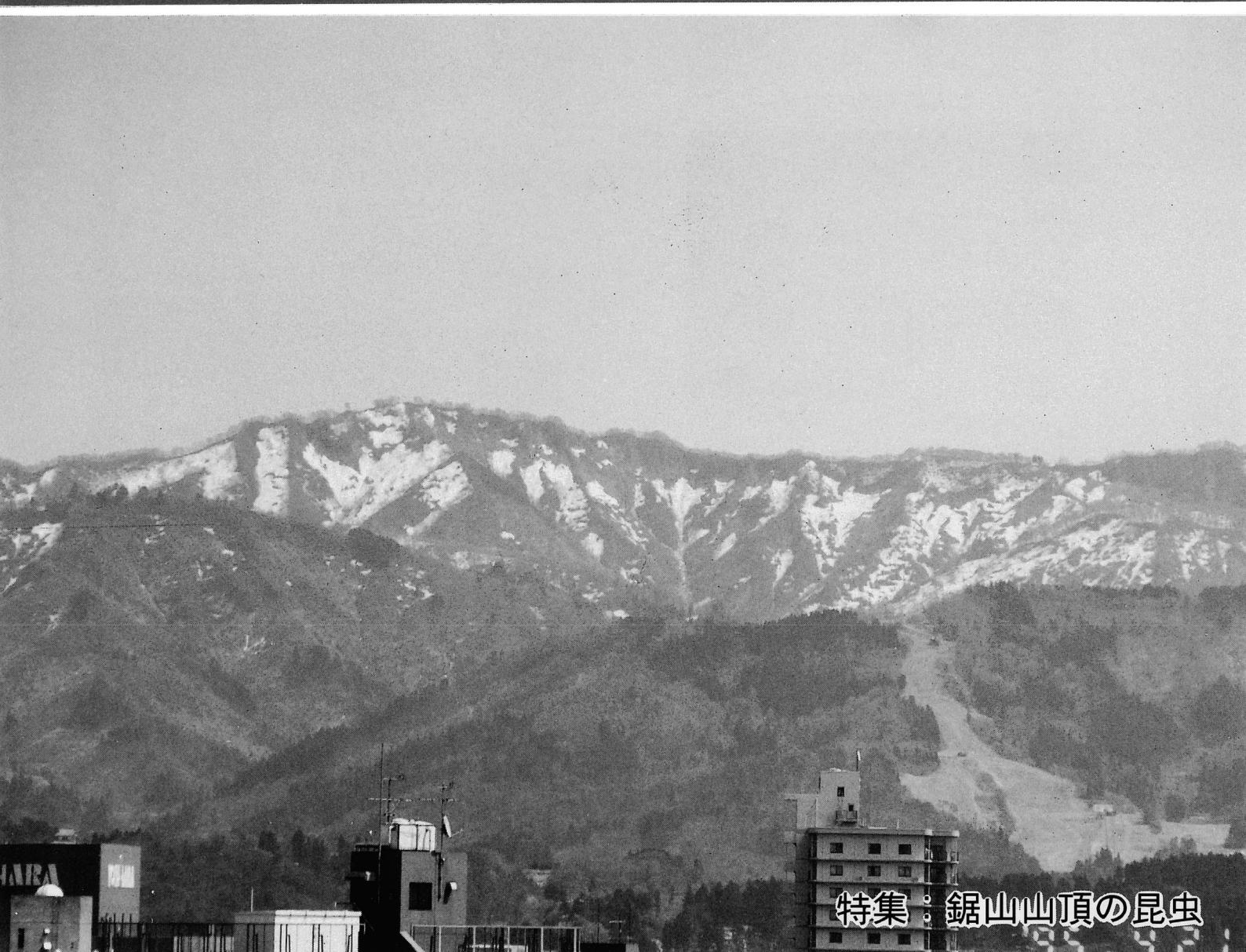


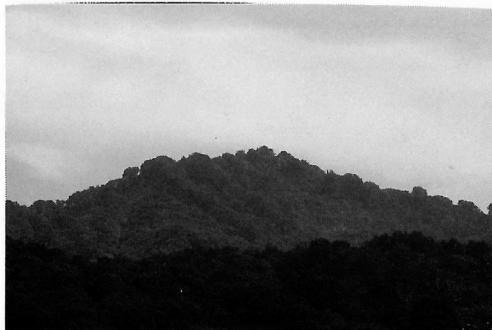
N K U

長岡市立科学博物館報

No. 71 1997



特集：鋸山山頂の昆虫



鋸山の陵線にはブナが残る



山頂直下の若いブナ林



多産するエゾミドリシジミ



ブナの上のミヤマクワガタ

71号

特集：鋸山山頂の昆虫

山屋茂人

1997年3月

はじめに

長岡市街地の東方には東山連峰と呼ばれる一連の山脈が南北に続くが、東南の方向、風谷山の奥にあるひときわ高く、ノコギリ状の特徴的なピークが鋸山である。長岡市としては最も標高が高いこと、独特な山容、そして晴天に恵まれれば、市の西方にある西山丘陵を越えて佐渡島をも眺望できることから、春から秋にかけて大勢のハイカーで賑わう。

鋸山を覆う植生上の特徴としては、山頂部に長岡市域には少ないまとまったブナの林が残されていることである。東山中腹の真木集落跡地に残された狭少なブナ林、平野部との境目に位置する石動神社（宮路町）や定正院（鷺巣町）に伝わるブナなどから推察すると、そんなには遠くない過去には東山一帯は広くブナ林で覆われていたと考えられ、ここは昔日の長岡の昆虫群集を唯一今に伝える所である。また、西山丘陵の小高いピークの1つである小木ノ城は山頂占有行動を示す暖地性種（例えば、モンキアゲハやアオスジアゲハ）や迷蝶（メスアカムラサキやツマグロヒョウモンなど）が多く記録され、長岡市域としては特異な昆虫相を示すことが知られるが（山屋、1990）、同地よりより内陸に位置するものの、これらの種がどの程度鋸山に産するのか、興味ある問題である。

この様に植生や地理的位置、そして地形から見て、長岡市域の昆虫を語る上で鋸山の調査は不可欠と思われるが、未だ断片的な分布記録に留まり、まとった報告は見られない。これは交通の便が悪いこと、そして急傾斜

〈表紙の写真〉

市街地から見た鋸山

地が多く採集しにくくことなどに起因すると思われるが、私は1993年以降この地で、主として鞘翅目（甲虫目）に関して調査を重ねてきた。同目の詳細な報告は別に予定

しているが、昆虫全般に渡り多くの新知見を得た。ここでは確認できた分布上の希産種を中心に興味深い鋸山の昆虫を観察ガイドを兼ねて解説したい。

調査地概要

鋸山のピークにある1等三角点（標高764.9m）に至る登山道は2つある。1つは最もポピュラーな花立峠を経由するコースで、国道352号線を通り栖吉町に入り、現在（1997）の国道の終点少し手前の左側に登山口がある。登り始めすぐに栖吉川を渡るが、ここは樋熊（1978）が紹介した青緑色に上翅が輝くマガタマハンミョウの産地である。しばらく進むと水田放棄地である草地に入り、その後杉の造林地、それを越えるとヤマモミジ、マルバマンサクなどから成るブッシュが続く。急登を登り切ると長岡が一望できる花立峠に至る。花立峠には狭いながらも広場があり、占有行動を示すタテハチョウやアゲハの類の観察に適し、さらに、ここからブナが姿を見せ、地形的な関係から森林性種の吹き上げ採集が期待できるなど、昆虫の観察ポイントに適している。ここから言わゆる‘はわたり’をしながら稜線を進み、山頂に到着できる。この間はブナ、ミズナラの林の中を歩くが

大木はほとんど無く、森林棲甲虫類が多く集まる朽ち木や倒木はほとんど見られず、登山道に接して立ち枯としては胸高直径60cmを越えるものはわずかに1本しか見られない。

一方、もう一つの登山道は栖吉から真木集落跡地を通り板尾市半蔵金に至る林道を進み、分水嶺を越えて板尾市側に少し入った右手に登山口がある。この登山口まで自動車で入ることができ、しかも全線舗装されてはいるが、冬期の積雪期以外にも天候により不通のことが多いため注意が必要である。入り口にはトリアシショウマやエゾアジサイがあるなど、ここ自体各種昆虫の観察に適するが、登り始めてすぐにブナ、ミズナラの林があり、沢筋の林の切れ間は多くの昆虫の活動の場となっている。本稿で長岡から初めて記録されるミドリシジミの類は多くはここで採集した。ここを過ぎるとすぐに急登になるが、このコースは頂上まではほとんど同じような登りが続

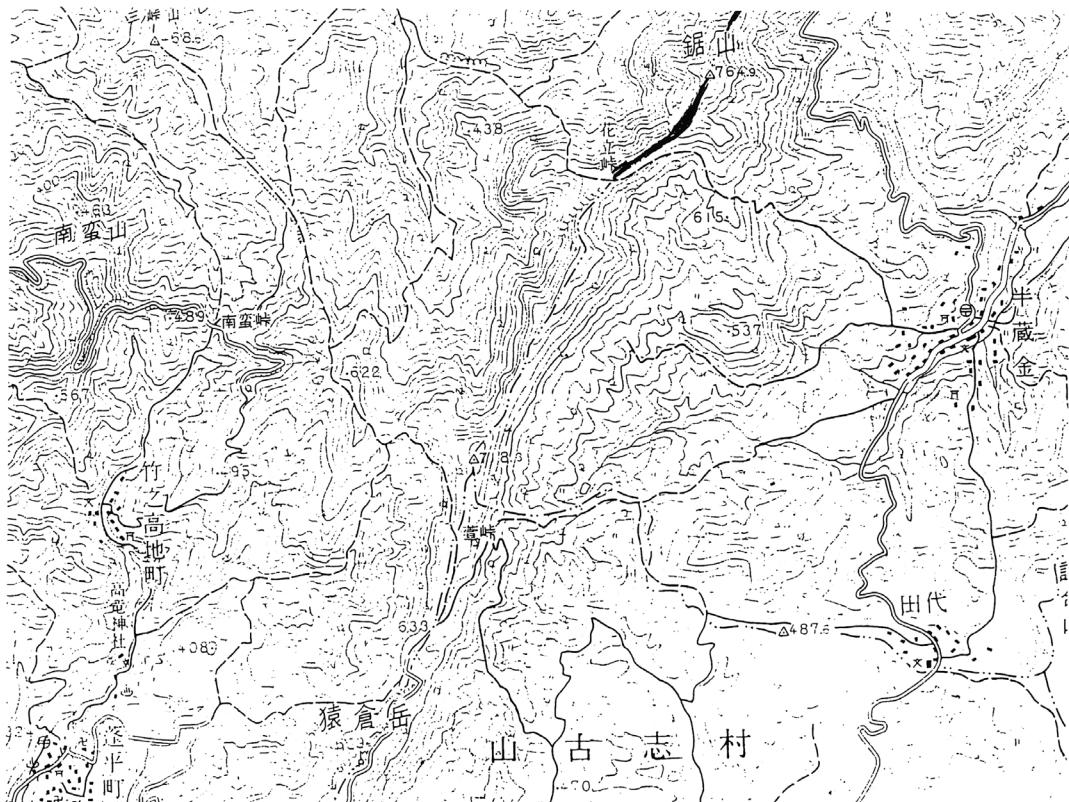


図1 鋸山の位置と調査ルート

く。所々に登るためのロープが設置してあるが、降雨の後など足場が悪いときには注意が肝心である。花立峠を経由するコースに比べブナは大きなものが多いが、やはり倒木や朽ち木はこのコースでも少ない。登山道の途中に大きなオオバボダイジュがあり、湯沢町など県央ではこの木にクロニセリンゴカミキリやシラホシキスイカミキリなどのカミキリムシ科、変わった形態のタケウチトゲアワフキが多数集まるが、ここでは今の所全く確認されていない。

いずれのコースでも訪花性昆虫の好む花は少なく、急

傾斜地にあるタニウツギ、ツツジの類そして前述したトリアシショウマ、エゾアジサイが少数見られるだけであり、このグループの分布調査は難しいと思われる。

本稿での調査ルートは2番目に紹介した登山口から入り、山頂を通り、花立峠に降り、そこを往復することが多かった。従って、本稿で扱う昆虫はほぼ鋸山山頂に限られると考えて良い。調査回数は1996年に限っても13回行い、5月20日から11月8日までの期間に渡ったが、6月中・下旬は悪天候にたたられ、8月初・中旬は日程が取れなかつたことから、この間の調査は手薄である。

鋸山の昆虫

鋸山で観察できた昆虫の内、分布上興味深い種や生態に関して新知見が得られた種を中心に、分類群ごとに述べる。

1. トンボ

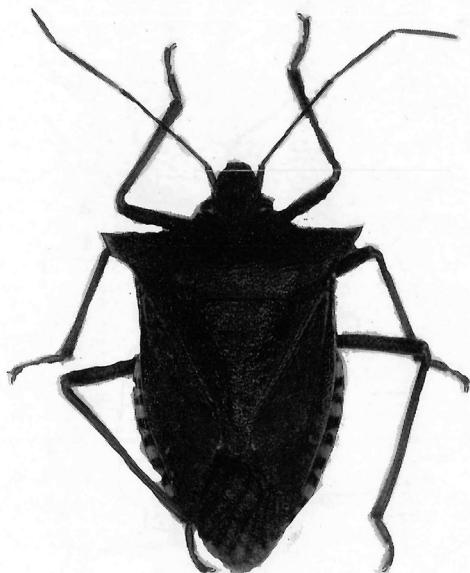
1996年6月13日登山道入り口の舗装道路上でパトロール行動をしているサラサヤンマを観察したが、この種が唯一トンボ目では分布記録の少ない種であった。水域に恵まれないため、観察できるトンボの種類数の少ない調査地である。

この年度では当日以降7月一杯までブナ林の切れ目、沢筋のオープン・スペースでオオシオカラトンボを多く

観察したが、これらはほとんどテネラル（未熟成）な個体であった。山頂周辺ではシオヤトンボが5月末から6月一杯見られ、ブッシュ上にはオニヤンマ・コヤマトンボ・オオエゾトンボ（この種は個体数が少ない）・タカネトンボが占有行動をとっていたが、これも7月末で姿を消し、それ以降はノシメトンボ・アキアカネなどのアカトンボ属に置き変わる。

2. セミ・カメムシ

セミはハルゼミ・エゾハルゼミ・エゾゼミ・ミンミンゼミ・ヒグラシの5種を確認した。いずれも個体数は少ないものであったが、エゾハルゼミは長岡から初記録と



▲ツノアオカメムシ



▲ハサミツノカメムシ

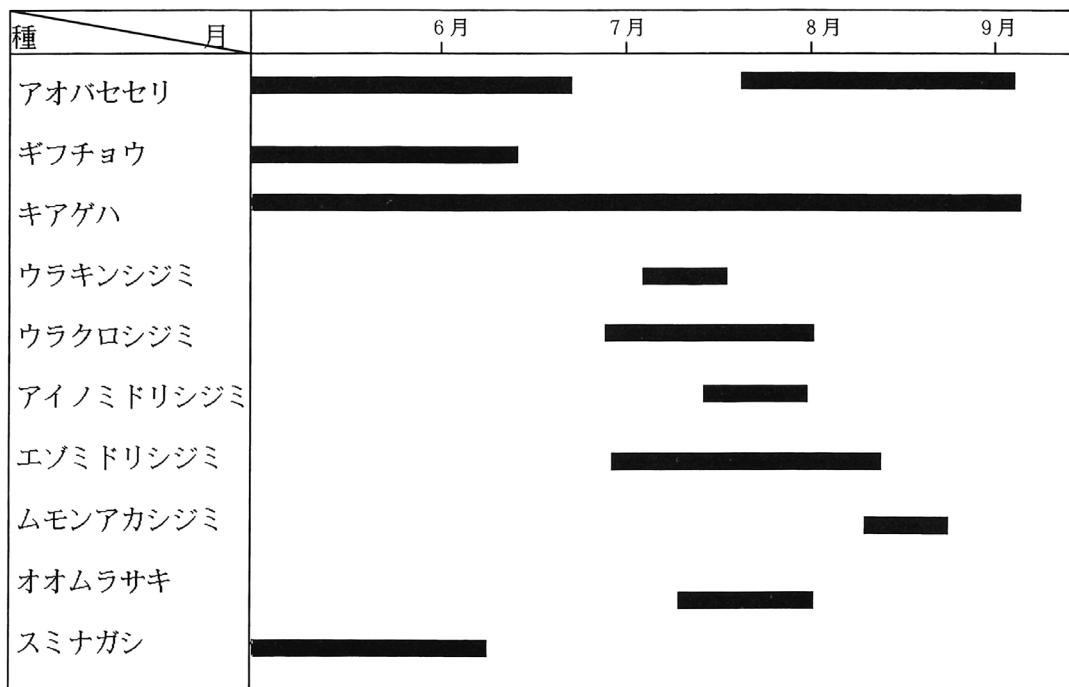


図2 鋸山における主だったチョウの発生消長

なる。6月13日と7月2日に山頂直下で1個体ずつ鳴いていたが、この種の鳴き声はムゼー・ムゼー・・・・・ケケケケーと特徴があり、新潟県内では標高1000m前後の中山帶(ブナ帶)に広く分布し、年によっては発生個体数は著しく多いものである。

カメムシ類では大型のトホシカメムシ・ツノアオカメムシを採集したが、後種は県内他地では普通であるが、長岡からは初めての記録となる。良く似た希種アオクチブトカメムシは長岡ではむしろ採集例は多いが、今回は採集できなかった。セアカツノカメムシなどツノカメムシ科は種数・個体数ともに多かった。

3. チョウ

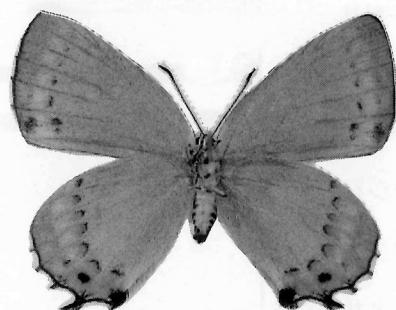
鋸山に産するチョウ相の特徴はゼフィルスと呼ばれる一連のミドリシジミ属とその近縁な森林性のシジミチョウ科を多く産すること、そして山頂のオープン・スペースに蝶道を形成し占有行動を示す種を多産することである。1996年の調査では、ムモンアカシジミ、ウラクロシジミ、ウラキンシジミ、オオミドリシジミ、エゾミドリシジミ、アイノミドリシジミの6種のゼフィルスを確認したが、これらの多くは、沢筋の林の切れ目や、山頂で採集された。ウラキン、エゾ、アイノの3種は長岡から今回初めて記録される種であり、山崎勝央君(長岡市立東中学校)からの私信では西山丘陵でカバマダラを採集(1ex. 長岡市雲出、1995年10月18日)したことから、これも含めると長岡からは90種のチョウが記録されたことになる。エゾミドリシジミは個体数が多く、占有行動も観察でき、4・5頭がもつれるように追飛する場

面も観察できたが、近縁の南蛮山から知られるジョウザンミドリシジミは全く採集できなかった。アイノミドリシジミは1♀の採集に過ぎず、個体数は少ないと思われるが、ブナ林内の下草に静止するクリソゼフィルス1♂を観察したことがあり(7月13日)、これはこの種の可能性が高い。ウラクロシジミは長岡では西山丘陵からの記録はあるものの、東山からは初めての報告となる。東山には本種の食樹であるマルバマンサクを多産することから分布の確認が望まれていた種であるが、この調査地での密度は低いようで、最も多く観察できた7月13日でも5頭の飛翔個体を目撃したに過ぎない。ムモンアカシジミは1960年代から産することが知られていたもので、1996年度は星野善之氏(栃尾市)から8月12日に山頂で採集した旨、連絡を頂いた。それにも関わらず長岡市域では多いウラナミアカシジミ、アカシジミ、ミズイロオナガシジミの3種のゼフィルスは確認できず、市域一般の低山帯とは趣を全く異にしているのには驚かされる。

山頂で観察できたチョウの内、県内分布から見て興味のある種としては、スミナガシとアオバセセリの2種が指摘できる。スミナガシは1994-1996年の3ヶ年、いずれの年度も5月末から6月中旬にかけて山頂のブッシュ上でテリトリーを張る個体が観察できた。県央の湯沢町八木沢での本種に関する私の観察では年2化、6月初・中旬に見られる春型は少なく、8月中・下旬に出現する夏型は個体数が多いものであったが、鋸山山頂では夏型は全く観察されておらず、他地と異なり年1化の様相を呈する。東山からはごく最近記録されたばかりであるが



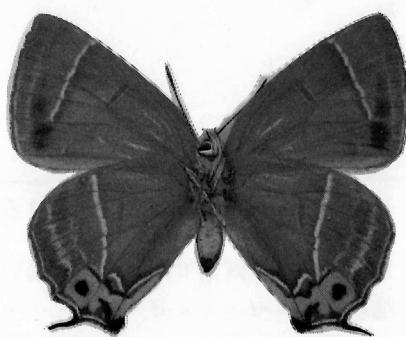
A



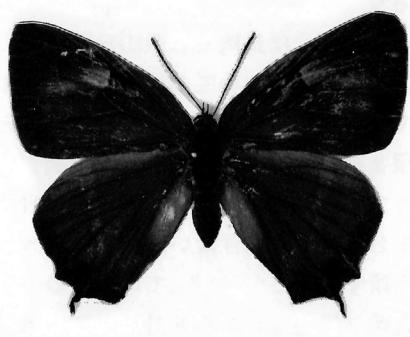
B



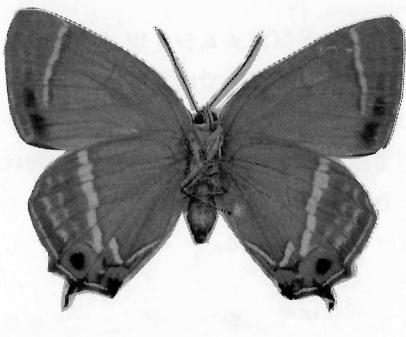
C



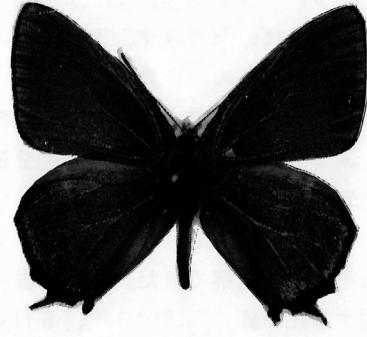
D



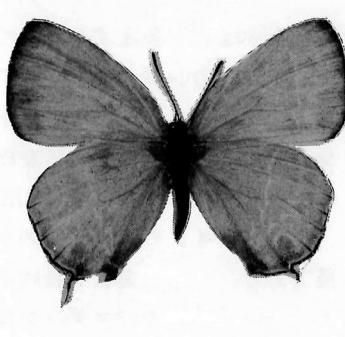
E



F



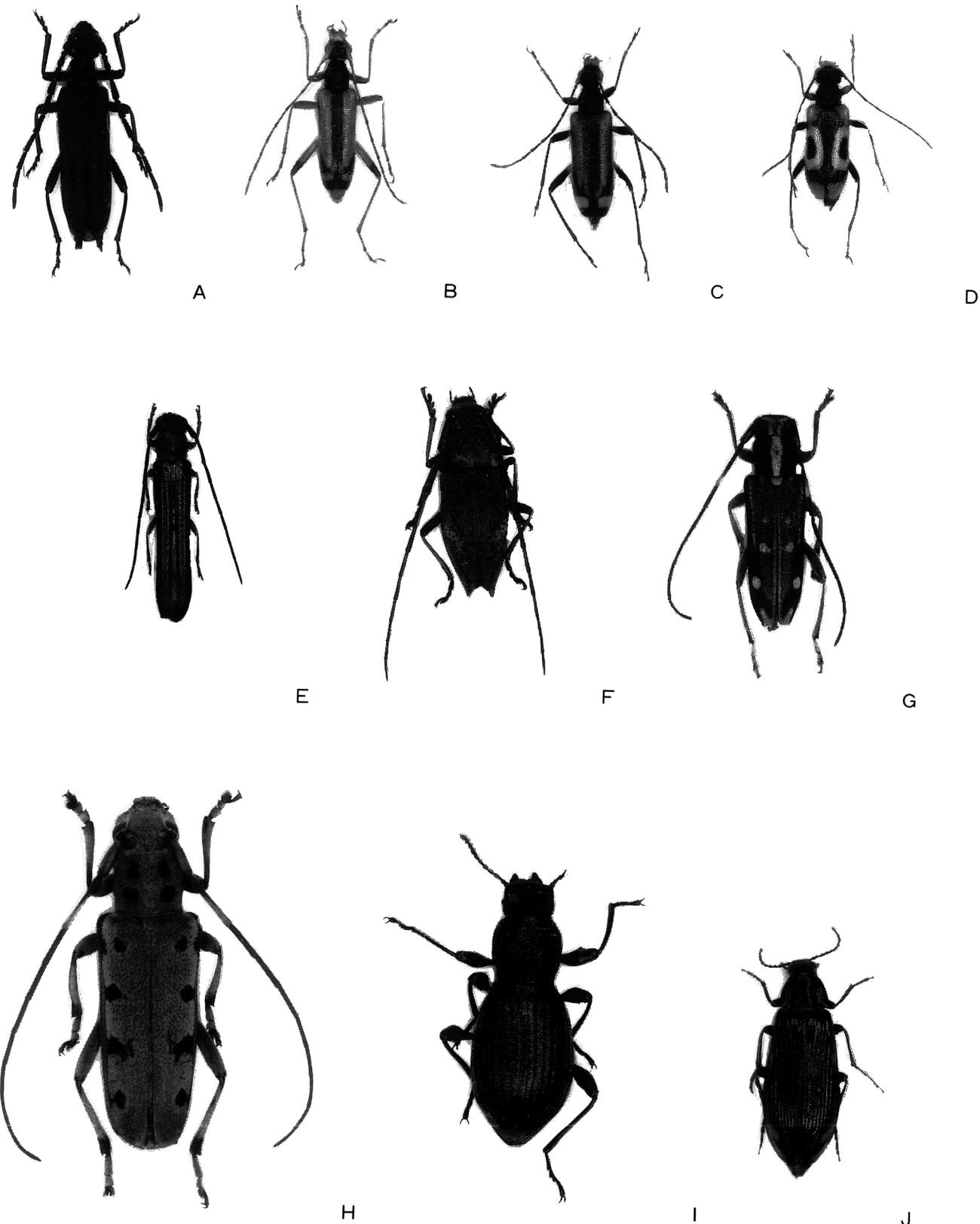
G



H

鋸山のゼフィルス

A～B：ウラキンシジミ C～D：アイノミドリシジミ
 E～G：エゾミドリシジミ H：ウラクロシジミ



鋸山の甲虫類

- A : ヒラヤマコブハナカミキリ B : ナガバヒメハナカミキリ♂
 C : ナガバヒメハナカミキリ♀ D : ミワヒメハナカミキリ
 E : ヒメリンゴカミキリ F : コブヤハズカミキリ G : ダイセンカミキリ
 H : ヤツメカミキリ I : ヒサゴゴミムシダマシ J : ヨツボンヒメナガクチキムシ

(山屋、1993) 初記録に用いられた個体は7月中旬に採集された個体であるにかかわらず、翅表の白斑が発達し、小型な個体であることから春型と考えられ、あながち東山では年1化というのも妥当かもしれない。

アオバセセリは5月末から7月一杯、少し見られない期間があるものの、常に複数個体を観察でき、確実に定着してるものと考えられる。この種も東山からは初の記録となる。

スミナガシとアオバセセリの2種は食草の関係から崖などの急傾斜地を主なハビットとするが、いずれも暖地に分布の中心があり、しかも山地を好む傾向がある。このような性質から県内の産地は限られる。暖地棲種ではないがこの2種同様崖の住人であるツマジロウラジャノメについても探索に努めたが、今の所確認されていない。湯沢町では9月初旬に多く観察されることから、この時期の精査が望まれる。

ギフチョウは登山道のオープン・スペースや山頂で蝶道を形成している個体を多く観察できた。食草であるコシノカンアオイもブナ林内や登山道に少なくない。飛びふるした個体ばかりが目につくが、豪雪地帯であることから、本種の発生初期に出くわす幸運な年は少ない。しかし、ほぼ自然な環境下で本種の生態を観察できる数少ない産地と言えよう。このギフチョウは放送大学の新川勉氏に送ったのでD.N.A.レベルでの地理的特徴が明らかにされると思う。ギフチョウ以外のアゲハチョウ科に属するウスバシロチョウ、キアゲハ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、オナガアゲハも山頂に多く見られ、特にキアゲハは6月から10月の長期に渡り、ナワバリ活動を観察できる。

オオムラサキは7月中・下旬の短期間ではあるが山頂のブナ中木の葉上に静止し、キアゲハなどのチョウに限らずイワツバメさえも追飛しているのが観察された。3頭採集したが、採集するとすぐ別の個体が侵入し、前の個体と同じように振る舞う。この種の食樹であるエノキは確認できないが、山頂に集まる個体は少なくないことから、食樹が少なく東山に少ない本種の唯一の多産地と言える。

図2に主だったチョウの発生消長を1996年の観察から図示しておく。

4. 甲虫類

甲虫類(鞘翅目)を主対象として調査した関係から、本目に関しては多くの新知見を得ているが、詳細は別稿に譲り、ここでは分布的に興味深い種を取り上げ解説する。

オサムシ科では希産種アオカタビロオサムシの分布を確認したが、これは別に報じた(山屋、1995)。その後

1996年度の調査では新たな個体の追加はできなかったが、前年同様テンと思われる糞には本種が多く含まれていた。

子供達に人気のあるクワガタムシ科は今の所、ミヤマクワガタ、スジクワガタ、コクワガタの3種以外確認できないでいる。ブナ帯に固有なルリクワガタ属、ブナ帯に多いヒメオオクワガタ、アカアンクワガタ、オニクワガタ、これらは標的には十分鋸山に生息できるはずで、特にコルリクワガタについては分布する確率は高いと思われるが、本種の採集に最も効果の高い‘新芽採集’をもってしても確認できないでいる。やはり、林自体が若く、朽ち木や倒木などクワガタムシ科にとって生活に必要な要素が少な過ぎるのだろうか。

カミキリムシ科は長岡周辺では比較的良く調べられているが、ヒラヤマコブハナカミキリ、ダイセンカミキリの2種を追加することができた。このうちヒラヤマコブハナカミキリは残雪上を飛翔中の個体を採集した(1995年5月19日)。新潟県では分布像がはっきりしないタコサビカミキリはすでに当地から報告されているが、今回も複数採集することができ、変異巾についてもある程度把握できたように思う。6月初旬に山頂のオープン・スペースでは上下にゆれるような特徴ある飛翔を示すヒメリンゴカミキリを多産することも特筆に値しよう。ヨコヤマヒゲナガカミキリはブナ林の指標種であるが、この種の脱出孔と思われるものをブナ根際近くに見つけたが、成虫は採集できなかった。この種と同様、県内のブナ帯を中心に広く分布し、30種を越える種数を有するヒメハナカミキリ属はナガバヒメハナカミキリ、ミワヒメハナカミキリの2種が今回確認されたに過ぎないが、前種は長岡では鋸山周辺に分布は限られ、後種は低密度ながら東山に広く分布を見るものである。今の所、西山丘陵からは本属は全く知られず、この点でも潜在植生がブナか否かで現在の分布がはっきりと規定されるようで、本属は優れた温帯林の保存度に関わる指標といえよう。因みに、東山のヒメハナカミキリ属であるが、所産種数が2種と著しく少ないと、本州中央部に広く分布を見るオオヒメハナカミキリ、セスジヒメハナカミキリ、フタオビチビハナカミキリの3種を欠き、むしろ分布の狭い上記2種が分布する点にも特徴が見られる。幸いこの2種には形態上に地理的な変異が見られることから、少なくとも県内各地のものとの比較により東山の特徴が読み取れる可能性がある。カミキリムシ科では他に、ヤツメカミキリ(東山初記録)、アカネカミキリ(長岡では2例目)など長岡周辺で記録の少ない種を確認することができた。

ナガクチキムシ科はその多くが森林に依存し、この科

の産する種数自体が森林の保存度に関する良い指標と思われるが、長岡からは僅かに4種が知られるに過ぎず、森林環境の乏しさを如実に物語っている。今回、思いがけないヨツボシヒラタナガクチキムシとクロホソナガクチキムシの2種の分布を確認した。(いずれも、1996年7月2日採集)。朽ち木や立ち枯れのほとんど見られな

い条件下での本科の収集は難しいが、この2種が採集されたことにより、まだいくつか追加できそうである。

他にツマホソフタホシントウ、クラヤミジョウカイ、ヒサゴゴミムシダマシ、ルイスクビボソハムシなど、長岡市域では初めて確認できた種も多くあるが、これは前述したように別稿で報告する。

鋸山の昆虫相の特徴

本稿では比較的調査の進んでいるチョウ類を含め、多数の長岡市域初記録種を記録した。また、既知種でも鋸山に限定される種類が多く見られることから、長岡およびその周辺との比較からは、この地域には独立性の高い昆虫群集が形成されていることを示している。しかし、新たに追加した種のほとんどと、ここに限定された分布を示す種の多くはブナ帯に分布の中心を置く種で占められるが、東山の潜在植生から昔はブナで広範に覆われていたことを考慮すると、この独立性は鋸山以外の東山では、もはや、人為の影響により過去の群集の名残をほとんど留めていないことに求めるのが自然であろう。鋸山に残されているブナも若木が多く、一度は伐採されたものと考えられるが、昆虫群集も種組成からするとブナ帯の代表種が顔を揃える形では構成されてはおらず、広範に分布する種を欠き、むしろそれに近縁の希産種を産するなど非調和な面が窺える。このような非調和な群集は島や人為により攪乱された群集に多く見られるもので、

原生林に繰り広げられる調和のとれたものとは明らかに異なる。従って、現在の鋸山の昆虫相は過去の極相状態下の東山の昆虫群集をどの程度反映したものかは、残念ながら現時点では量ることはできない。隣接地帯にある低標高の保存度の高いブナ原生林と鋸山、少なくとも2地点における精度の高い調査なくしては答えは望めまい。今後の資料の集積に期待したい。

また周辺と比べ、突出したピークを持つ地形上の特徴に関しては、スミナガシやアオバセセリを産し、キアゲハ、ミヤマカスアゲハなどが多く集まり、明らかに山頂占有行動を示す種を多産することに求められる。しかし、同様なピークを持ち、鋸山に比べ日本海岸に近い小木ノ城とは異なり、暖地性種であるオスジアゲハやモンキアゲハそして迷蝶も全く確認できなかった。小木ノ城との地理的位置の違い、より内陸にあると言うことで、温暖化と共に海岸沿いに北上を続けるこれらの種はまだ侵入できないよう顕著な違いを示している。

わりに

西山丘陵と好対照な自然を示す東山、われわれ長岡市民はその2つからもたらされる多様性に富んだ豊かな自然の狭間で暮らしていると言える。その一方の特徴を色濃く伝える鋸山は、市民にとって、かろうじて原生時の自然を今に語る貴重な自然と言えるだろう。ぜひとも次の世代に残したいものである。

ブナ林に形成される群集は種一多様性に富み、1種当たりの個体数の少なさが特徴の1つに上げられる。この特徴は分布調査の上では大きな障害であるが、これは調査回数を重ねてもなかなか全貌が明らかにならないことを意味する。しかし、この特徴からすると、思いがけない貴重種を観察できる楽しみは他に比べてはるかに高確

率と思われる。また、このまま温暖化が続ければ、いずれ現在この辺りでは小木ノ城だけに多産する種が鋸山でも見れる事であろう。このように、多くの発見の楽しみを残している鋸山であることから、ハイキングなどで同地を訪れた際に昆虫の奇妙な生態を観察する幸運に巡り合えたら、是非博物館に連絡いただけたらと思う。

末文ではあるが、鋸山周辺での採集記録を教わり、標本についても一部博物館に寄贈頂いた星野善之氏(栃尾市)、野神 譲氏(現、鎌倉市)には厚くお礼申し上げる。また、調査地のスナップ写真の使用を許された当館の学芸員である山崎 進氏並びに渡辺 央館長にもお礼申し上げたい。

平成8年度事業報告

資料調査収集・研究協議(市内は省略)

〔地学研究室〕

新潟市：11・3月、栃尾市：12月、東京都：3月、小千谷市：3月

〔植物研究室〕

越路町：3月

〔昆虫研究室〕

湯沢町：6・7月、黒川村：7月、糸魚川市：10・3月、下田村3月、豊栄市：3月

〔動物研究室〕

高柳町：6月、中之島町：1月、越路町：3月

〔考古研究室〕

小千谷市：7月、栃尾市：11月、和島村：11月

〔民俗研究室〕

小千谷市：8・11月、神奈川県川崎市：9月、新潟市：1・2・3月

〔歴史研究室〕

新発田市：5・6月、小千谷市：7・11月、栃尾市：11月

協議会・研修会・学会等

- ・新潟県博物館協議会総会 5月8日 新潟市(参加：渡辺館長)
- ・北信越博物館協議会総会・研究協議会 5月16・17日 石川県金沢市(参加：渡辺館長)
- ・植物分類・生態学講座 5月18・19日 神奈川県小田原市(参加：高橋学芸員補)
- ・日本考古学協会総会 5月25・26日 東京都(参加：小熊主任)
- ・新潟県博物館協議会運営研究会 6月25・26日 栃尾市(参加：渡辺館長、高橋学芸員補)
- ・野外生態実習 8月30・31日 東京都(参加：高橋学芸員補)
- ・新潟県博物館協議会学芸員等職員研修会 11月6・7日 群馬県高崎市(参加：広井学芸員)
- ・日本鞘翅学会 11月9日 東京都(参加：山屋学芸係長)
- ・日本蝶類学会 12月8日 東京都(参加：山屋学芸係長)
- ・長野県考古学会シンポジウム 1月18・19日 長野県北佐久郡望月町(参加：小熊主任)

普及活動

〔地学部門〕

・地層と化石の観察会

7月21日、妙見町、参加者17人。・雪氷観察会

2月16日、長岡雪氷防災実験研究所、講師：長岡雪氷防災実験研究所第3研究室長 納口恭明、同主任研究官 小林俊市、同研究官 岩波越、参加者11人。

〔植物部門〕

・早春の植物観察会

5月6日、栖吉町周辺、講師：前博物館長 西山邦夫、参加者11人。

・親子夏の植物観察会

7月28日、柿町白山神社、講師：前博物館長 西山邦夫、参加者2人。

・植物標本の名前を調べる会

8月29日、中央公民館 401教室、講師：前博物館長 西山邦夫、参加者16人。

・キノコを調べる会

10月10日、東山ファミリーランド、講師：長岡キノコ同好会事務局長 原信高、長岡キノコ同好会会員 伊藤尚威、前博物館長 西山邦夫、参加者69人。

・キノコの展示会

10月11・12日、科学博物館展示室、講師：長岡キノコ同好会事務局長 原信高、入場者 241人。

〔昆虫部門〕

・ギフチョウ探蝶会

4月21日、雨天中止。

・初夏の昆虫観察会

6月16日、栖吉町周辺、参加者21人。

・親子昆虫標本づくり教室

7月27・28日、東山ファミリーランド・中央公民館工作室、参加者35人・51人。

・昆虫標本の名前を調べる会

8月30日、中央公民館工作室、参加者21人。

・初秋の昆虫観察会

9月15日、栖吉町周辺、参加者18人。

・越冬昆虫を調べる会

11月10日、栖吉町周辺、参加者25人。

〔動物部門〕

・野鳥相を調べる会

調査地：信濃川左岸(長生橋～長岡大橋)

4月21日、参加者48人。5月26日、参加者30人。6月23日、参加者25人。7月28日、参加者19人。8月25日、参加者35人。9月22日、参加者14人。10月13日、参加者22人。11月24日、参加者27人。

・野鳥集会と探鳥会

5月18・19日、八方台休暇センター・県民いこいの森、講師：長岡野鳥の会評議員 井口忠、参加者43人。

・冬鳥さよなら探鳥会

3月16日、信濃川長生橋上流、参加者30人。

〔考古部門〕

・縄文土器をつくる会

5月19日・6月2日、深才連絡所・藤橋歴史の広場、
講師：陶芸家 今千春、参加者22・21人。

・縄文時代の石器をつくる会

6月30日、藤橋歴史の広場、参加者20人。

・遺跡発掘教室

8月11日、中道遺跡、講師：市生涯学習課 駒形敏朗
・鳥居美栄、参加者13人。

〔歴史部門〕

・長岡の歴史を探る会

5月26日・参加者33人、7月14日・参加者20人、中央
公民館 401教室。9月22日、乙吉町、講師：龍穂院住
職 桜井統一、参加者19人。11月24日、中央公民館 4
01教室、参加者18人。12月14日、中央公民館 401教室、
講師：新潟県企画調整部企画課嘱託 長谷川伸、参加
者22人。

〔民俗部門〕

・石仏探訪会

講師：黒船館館長 大竹信雄。

6月23日、鶯巣町周辺、参加者13人。

9月8日、栖吉町周辺、参加者9人。

〔総合〕

・信濃川の自然を調べる会

5月12日、信濃川川辺、講師：前博物館長 西山邦夫、
長岡野鳥の会評議員 古川英夫、参加者18人。

・第45回生物標本展示会・第38回自然科学写真展示会

10月23~27日、厚生会館中ホール、出品者数延 150人、
出品点数 4,577点、入場者数 854人。

・第33回生物研究発表会

10月27日、厚生会館第1小ホール、発表：小学生の部
13題、中学校の部 3題、入場者数82人。

企画展「南極岩石ものがたり」「南極雪氷ものがたり」

・期間 7月9日~9月29日、入場者数 3,924人

・講演会「南極大陸の氷河に挑む」

7月14日、中央図書館講堂、講師：長岡技術科学大学
助教授 東信彦、入場者数62人。

・講演会「海を旅した南極大陸」

8月17日、中央図書館講堂、講師：新潟大学理学部助
教授 豊島剛志、入場者数36人。

・見学会「低温体験と氷の実験」

8月8日、長岡雪氷防災実験研究所、参加者35人。

・観察会「顕微鏡で見る南極の岩石」

8月 3・4・10・18・24・31日・9月 8・14・22・23・28日、科
学博物館展示室、参加者数 620人。

・観察会「南極の氷にさわってみよう」

9月 8・14・22・23・28日、科学博物館展示室、参加者数
291人。



企画展「歴史資料の特別展示」

・展示 平成6年度以降に新たに購入、寄贈された戦国
時代の古文書や刀剣類、江戸時代の長岡藩医の勉強ぶり
を示す書籍、武器や武具など。河田家資料、旧長岡
藩医丸山家資料、早川省三氏収集資料

・期間 10月8日~12月12日、入場者数 2,433人

企画展「信濃川の大形冬鳥展」

・展示 毎冬信濃川に渡ってくる冬鳥の中から、白鳥、
雁、鶲という日本の貴重な大形鳥類とその生態。

・期間 1月10日~

少年少女青空科学教室

郷土の豊かな自然、太古の文化などを科学的見地から
見つめ直すことによって、青少年の科学する心、郷土を
愛する心を育むことを目的に実施した。

対象：小学5・6年生 期間：5月~10月

・地学教室 参加者数13人 実施回数7回

講師：新潟大学大学院生 矢部英生・長森英明・作本
達也

・昆虫教室 参加者数5人 実施回数9回

講師：越佐昆虫同好会副会長 桜井精

・野鳥教室 参加者数13人 実施回数7回

講師：長岡野鳥の会副会長 沢田和夫

・縄文教室 参加者数16人 実施回数8回

講師：新潟県考古学会会員 磐辺保衛、十日町市博物

館学芸員 石原正敏、長岡市生涯学習課学芸員補 鳥居美栄

総合博物館建設のための事業

○長岡市立総合博物館（仮称）展示委員会の設置顧問
(敬称略)

| 氏名 | 職名 |
|------|--------------|
| 杉山二郎 | 国際佛教学大学院大学教授 |

委員（敬称略）

| | 氏名 | 職名 |
|----|----------------------------------|---|
| 地 | 納口 恭明 | 長岡雪氷防災実験研究所第3研究室長 |
| 学 | 小林 巍雄 | 新潟大学理学部教授 |
| 植物 | 石澤 進 | 新潟大学理学部教授 |
| | 小島 誠 | 新潟大学農学部教授 |
| 昆虫 | ○樋熊 誠治 遠山富士雄 | 新潟県自然環境保全審議会委員 加茂市立七谷中学校校長 |
| 動物 | 村山 均 金安 健一 | にいがた貝友会会长 長岡市立宮内中学校教諭 |
| 孝古 | 小野 昭 中島 栄一 | 東京都立大学人文学部教授 新潟県立小千谷高等学校教頭 |
| 歴史 | 金子 達 土田 隆夫 稲川 昭雄 ○吉沢 俊夫 | 新潟県立新潟西高等学校教諭 長岡市文化財調査審議会委員 長岡市市史編さん室室長 長岡市文化財調査審議会委員長 |
| 民俗 | 駒形 賦 高橋 由雄 鈴木 昭英 | 新潟県自然環境保全審議会委員 新潟県民俗学会会員 上越教育大学講師 |
| 自然 | 西山 邦夫 | 新潟県自然環境保全審議会委員 |

◎委員長、○副委員長

・委員会の開催

- 第1回全体会 5月23日 中央公民館大ホール
- 第2回部会・全体会 10月17日 中央公民館大ホール
402・403教室
- 第3回全体会 2月28日 中央公民館401教室

・資料調査収集・研究協議（市内は省略）

〔植物部門〕

新潟市：4・3月、新発田市：9月、黒川村：11月

〔昆虫部門〕

湯之谷村：7月、黒川村：8月、湯之谷村：9月、長野県須坂市：10月

〔動物部門〕

新発田市：5月、山北町：11月

〔考古部門〕

新津市：11月

〔歴史部門〕

新発田市：5月、小千谷市：10月、新潟市：3月、越路町：3月

〔民俗部門〕

- 柏崎市：5月、村松町：5・3月、妙高村：6月、糸魚川市：7月、聖籠町：8月、秋田市：9月、千葉県松戸市・佐倉市：9月、高柳町：10月、加茂市・下田村・田上町：11月、長野県上水内郡戸隠村：3月
- ・新潟県企画課と展示内容等協議
新潟市：5月
- ・先進博物館視察
群馬県立自然史博物館：1月

○故中村孝三郎関係資料調査整理委員会の設置

委員（敬称略）

| 氏名 | 職名 |
|--------|---------------|
| ○小林 達雄 | 國學院大学文学部教授 |
| 中島 栄一 | 新潟県立小千谷高等学校教頭 |
| 若松 茂 | 新潟県文化財パトロール委員 |
| 松井 寛 | 越後古代史研究会会員 |
| 中村 隆 | 遺族代表 |

◎委員長

- ・委員会の開催
第1回 6月27日 中央公民館 302教室
- 第2回 11月1日 中央公民館 302教室
- ・資料調査 7月、8月

出版物

- ・館報（N K H）第70号 生物研究発表・少年少女青空科学教室特集号 700部
- ・館報（N K H）第71号 鋸山山頂の昆虫特集号 700部
- ・博物館研究報告第32号 500部
 - 1 新潟県長岡市浦瀬川流域に分布する鮮新・更新統の古地磁気（その5） 加藤 正明
 - 2 New or little known Scarabaeid-beetles preserved in Nagaoka Municipal Science Museum 三宅 義一・山屋 茂人
 - 3 長岡市悠久山公園のサギコロニーにおけるスギ樹の立ち枯れと営巣の関係 渡辺 央
 - 4 古志長尾寺入部前後の栖吉一中世における栖吉村落の研究Ⅱ 広井 造
 - 5 聞き書き 高田瞽女一その2 鈴木 昭英
 - 6 卵ノ木遺跡出土土器の研究 I -押型文土器の再検討- 小熊 博史
 - 7 岸千治著『越路之雪』翻刻及び解説 山崎 進
- ・資料シリーズNo.7 「縄文時代の信仰」 1,000部
- ・資料シリーズNo.8 「縄文土器」 1,000部
- ・ガイドブック「悠久山自然と歴史探訪」 2,000部

主な資料寄贈

〔地学資料〕

- ・南極大陸産岩石ほか28点

長岡市川崎6丁目

佐藤 正

- ・南極大陸ナピア半島産ザクロ石片麻岩

新潟市五十嵐二の町

志村 俊昭

〔歴史資料〕

- ・第2次昭和切手1銭ほか5点

長岡市稽古町

田村 シン

- ・記念盃

長岡市希望が丘2丁目

西山 邦夫

- ・旧長岡藩医丸山家所蔵資料薬研ほか68点

新発田市中央町4丁目

丸山 瞳子

- ・被人災資料建物台石

長岡市柏町2丁目

三浦 則夫

- ・AN-M69集束油脂焼夷弾ノーズブロック

長岡市大島新町4丁目

吉田 充

- ・マッヂ箱絵柄ほか69点

長岡市関原町1丁目

細貝 福衛

- ・銃剣

長岡市大島本町4丁目

平田 由三郎

- ・権災証明書ほか1点

新潟市小針が丘

保高 正良

- ・旧小千谷真人庄村屋福原家所蔵資料311点

長岡市川崎町

福原 国郎

〔民俗資料〕

- ・ゴザアンシダほか3点

長岡市関原町1丁目

細貝 福衛

- ・雪割

長岡市柏町2丁目

三浦 則夫

- ・ショウボウズキンほか85点

長岡市日赤町1丁目

山田 秀男

- ・スキ

長岡市四郎丸町3丁目

野本 茂助

- ・下駄職人の道具25点

長岡市大山2丁目

長沢 美代二

- ・十二講の弓ほか2点

長岡市蓬平町

中島 健治

- ・フカグツほか7点

長岡市宝2丁目

谷崎 誠二郎

- ・カンジキほか4点

長野県上水内郡戸隠村

徳武 寿人

職員名簿

| | | |
|------|---------|------|
| 館 長 | 渡 辺 央 | (動物) |
| 学芸係長 | 山 屋 茂 人 | (昆虫) |
| 主任 | 加 藤 正 明 | (地学) |
| 主任 | 小 熊 博 史 | (考古) |
| 学芸員 | 山 崎 進 | (民俗) |
| 学芸員 | 広 井 造 | (歴史) |
| 学芸員補 | 高 橋 千 草 | (植物) |

| | |
|------------|---------|
| 副 主 幹 | 鈴 木 久 一 |
| 副主幹(兼庶務係長) | 野 村 一 夫 |
| 主任 | 安 藤 正 利 |
| 管理員(兼務) | 五十嵐 伸 吾 |
| 臨時職員 | 本 田 竹 子 |

平成8年度月別入館者数

| 月 | 個 人 | | 団 体 | | | 資料紹介 | | 計 | |
|-----|-------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|----|--------|
| | 大人 | 子供 | 団体数 | 大人 | 団体数 | 子供 | 大人 | 子供 | |
| 8.4 | 485 | 282 | 0 | 0 | 10 | 725 | 82 | 10 | 1,584 |
| 5 | 582 | 278 | 1 | 50 | 15 | 1,085 | 65 | 3 | 2,063 |
| 6 | 376 | 118 | 0 | 0 | 6 | 326 | 72 | 4 | 896 |
| 7 | 581 | 250 | 3 | 75 | 1 | 11 | 102 | 12 | 1,031 |
| 8 | 1,161 | 647 | 2 | 49 | 0 | 0 | 83 | 20 | 1,960 |
| 9 | 850 | 357 | 1 | 20 | 1 | 21 | 111 | 4 | 1,363 |
| 10 | 679 | 129 | 4 | 115 | 7 | 274 | 109 | 0 | 1,306 |
| 11 | 431 | 96 | 1 | 21 | 2 | 94 | 90 | 1 | 733 |
| 12 | 242 | 46 | 0 | 0 | 1 | 12 | 93 | 1 | 394 |
| 9.1 | 288 | 61 | 0 | 0 | 1 | 10 | 65 | 0 | 424 |
| 2 | 390 | 78 | 2 | 39 | 0 | 0 | 72 | 2 | 581 |
| 3 | 437 | 169 | 0 | 0 | 1 | 31 | 69 | 4 | 710 |
| 計 | 6,502 | 2,511 | 14 | 369 | 45 | 2,589 | 1,013 | 61 | 13,045 |

N K H (長岡市立科学博物館報) No.71

平成9年3月31日発行

編集・発行 長岡市立科学博物館

〒940 長岡市柳原町2番地1

印刷所 (有)めぐみ工房

長岡市千場1丁目2-17